

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	いちょうの里グループホーム
(ユニット名)	南棟
所在地 (県・市町村名)	宮城県栗原市築館字下宮野館108番地
記入者名 (管理者)	佐藤恵子
記入日	平成 19 年 5 月 25 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・いちよの里全体とグループホームの各々理念を掲げ、見易いところに掲示している。	○	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・日々の業務を通じて、朝のミーティングで復唱している。又、理念や方針を具体的に職員に伝え、話し合っている。	○	・ふと立ち止まったとき、困ったときは理念を振り返りながら日々の業務に当たりたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・年3回発行される法人広報の中でも理事長が大きく取り上げ、皆に伝わるようにしている。	○	・面会時、ご家族の目にとまるようにフロアに掲示している。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・ボランティア友の会があり、又、老人クラブの方々による花植えや、ふれあい活動がある。 ・学生のボランティアや慰問を多く取り入れている。	○	・入居者の友人たちも立ち寄ってくれる。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地区運動会や交通安全総ぐるみ運動等に参加している。 ・保育所、小学校学芸会等の行事への参加	○	・時々ゲートボールを見物に行ったりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・介護者教室を開催し、介護の話し合いをしている。	○	・自由に立ち寄っていただける企画を考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・皆で自己評価に取り組み勉強会を通じて改善策などを考えている。また、運営推進会議で意見もいただいている。	○	・評価項目に目を通し、確認しながら業務にあたりたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、評価への取り組みや、その結果を報告。意見交換している。	○	・今後も運営推進会議を活発化させ、委員の皆様と全職員が一丸化していけたらと思う。交替で職員の参加を考える。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・制度改正に関わる事柄などを気軽に電話相談などを行っている。	○	・活発化していけるよう努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・制度についての研修には参加している。	○	・本人希望でまもり一歩を利用している人もいる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加し、また、参加した職員からミーティングや勉強会などで報告を受けている。 ・虐待防止のポスターを事務室に貼り、常に目にとめるようにしている。	○	・虐待防止に対する思いが統一されるように常日頃より話題にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時、解約時には、解りやすい言葉で説明するよう努めている。また、読み返し解らない点はいつでも連絡いただいても良いことも合わせて話している。</p>	<p>○</p> <p>・入居されている方の理解も合わせていただくように努めている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ゆったり、のんびりした雰囲気の中で、よく話を聞く姿勢を示している。</p>	<p>○</p> <p>・苦情時の連絡先を見やすいところへ掲示し、話題にしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・面会時に状況を報告することはもちろん、家族が遠方の方には、電話や広報などで報告している。 ・金銭管理についても、上記と同じく確認いただき確認印をいただいている。</p>	<p>○</p> <p>・今の報告状況を今後も継続していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・苦情が言いやすい環境を作り、苦情があった際は、話し合いを持つよう努めている。 ・意見箱等を設けている。また、直接家族との話し合いを持つ。</p>	<p>○</p> <p>・家族から気軽に言っただけの雰囲気を作る。また、いただいた意見はすぐに申し送り、今後に反映させる。 ・申し送りノートの活用。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・勉強会、また、毎朝のミーティングの際に意見を聞く時間を設けている。意見があった際には、皆の意見を聞き反映している。 ・各委員会、全体の主任者会議等にて報告している。</p>	<p>○</p> <p>・今後も継続していく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・夕方、落ち着きが無くなる方もいるため、勤務の時間を調整している。 ・行事に合わせて、職員の確保をしている。</p>	<p>○</p> <p>・外出、外泊時の送迎も家族の希望に応じて行っている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・新しく入居された方が早く馴染んでいただけるよう周りでも支援、声掛けに配慮している。</p>	<p>○</p> <p>・異動してきた職員には、統一した声掛けができるよう、話し合い、勉強会など行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修委員会で計画を立て、実践している。また、研修には積極的に参加し、勉強会等を活用し皆に内容を共有できるよう報告している。 ・異動職員については、10日間実習ノートを記入し、相談員からのアドバイスがある。(新人については3ヶ月)	○ ・他のグループホームとの交換研修にも参加している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・交換研修、または、他のホームとの合同勉強会を実施、交流を図っている。	○ ・他にソフトボール大会を年1回実施しているので続けていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・昼休み、休憩時間を確保している。 ・お互いに相談し合い、共有し合っている。	○ ・それぞれに食事会等をして、ストレス軽減に努めている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・介護者の健康管理に気をつけながら、両棟の勤務状況等を考慮しながら1人1人の意見を反映するよう努めている。	○ ・良く話を聞き合う。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・常時、傾聴、受容、共感を忘れずに心がけることで信頼関係をつくるよう努めている。	○ ・初期の印象を大切にしよう声掛けしている。よく話を聞くことや、笑顔でいることを大切にしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ケアマネジャーとの連携を密にし、努めている。 ・家族への報告、連絡を行っている。	○ ・家族の抱えている悩み事や問題、疑問な点等をなくすよう声掛け、話し合いを持つ。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族との話し合いの中で見極め、他サービス関係者とも相談している。	○	・デイサービスを利用していた方は、グループホーム入居後も遊びに行ったり等の連携を図っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に見学していただき、他の入居者の方々と交流を持ち、本人の気持ちを大切にしている。	○	・今後も利用者の馴染みのある物など持参していただき、早く雰囲気になじめるようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・一緒に笑い、本人が嬉しいときは一緒に喜び合い暖かみのある生活に努める。	○	・最も重要なことであり、大切にしていることです。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・実態報告をこまめにし、共に家族の方の支援にも努めていく。	○	・出来る限り家族の方の思いに答えられるよう、また、一緒に考えていけるよう配慮し、努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族の思いの理解に努め、色々な話を受け止めている。 ・出来るだけ、行事に参加してもらえるよう促す。 ・盆正月の外泊にも協力いただいている。	○	・家族の協力が一番なので、大切に思います。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会は自由で、手紙や贈り物等で楽しみを感じられている。	○	・本人の生き甲斐、楽しみでもあるので継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・職員が仲介に入り、話し合いをしたり、家事に関わっている。 ・出来るところで関わりを持っていただき、無理なくいやがらずにしていだけるよう支援している。	○	・皆で出来るゲーム等をしたり、唄や踊り等、昔懐かしいもの等を一緒に行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・家族より電話等をいただき、話や相談に応じている。 ・出来るだけ面会に来ていただけるよう要請している。	○	・来ていただいたときは必ずお茶などを入れ、一緒に和やかな一時を過ごしていただく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプランの見直しの際、本人より意向を聞き取りしている。 ・本人の出来る事への支援、その人らしい暮らしのための支援に努めている。	○	・本人の思いや希望を大切にしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式により状況把握。また、状況に応じ、家族に聞き取りしている。 ・過去の経験を活かしたケアに努める。	○	・今後も何気ない会話から生活歴を聞き取り、よりよいケアのヒントになればよいと考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・1人1人の心身状態など、職員同士で申し送りし、共有する。 ・出来たことは、ほめることを忘れない。	○	・自宅への外出希望にもすぐに付き添えるよう配慮している。(すぐに対応で落ち着いていただいている)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画の見直しは、本人、職員と共に話し合う。また、家族より要望も受け付ける。	○	・本人や家族の希望が言える関係や雰囲気を持つよう努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・月1回評価し、改善するよう努めている。 ・全ての職員が計画の内容を知る仕組みをとっている。	○	・毎日ケアプランチェック表をつけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日生活状況を記入しているほか、プランの見直しに生かせる様式で評価を記入している。	○	・他の事業所などと研修等を通じて記録様式について今後も検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・特にデイサービスやショートステイ利用者との交流がある。	○	・他の部所とも協力し合って継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・気分転換にボランティアが来て、体操など一緒に行っている。 ・芸能祭りなどへの参加	○	・ボランティアとの連携を大切にし、地域との連携の輪が広がればよいと考えている。 ・広報等の情報を取り入れ活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・特にない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・特にない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族に希望を聞きながら、すすめている最中である。	○	・充実していけるよう連携を図っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・家族へ状況報告しながら受診していただいている。	○	・生活の中で、特記を記入し、家族へ渡している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・毎日看護師が来る際、状況報告をし、指示を仰いでいる。 ・日誌や申し送りノートを活用し、健康管理に気を配っている。	○	・看護師からの申し送り等の職員間への申し送りや記録の徹底をする。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院した際には、職員が入院先へ赴き、看護師に状態を伺っている。 ・医師、家族との連携を図っている。	○	・きめ細かく病院に足を運ぶよう努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・今年度より実施。	○	・全員で方針を共有できるよう努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・現在準備中である。	○	・チームでの支援のあり方について検討中である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・情報提供シートがあり、移る際は、そのシートの方も渡し、本人が少しでもダメージがないよう努めている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライドを傷つけないよう声掛けをし、個人情報が出漏れのないよう書類の保管場所を決めている。 ・ゆったりとした気持ちで、よく話を聞く姿勢をとっている。	○ ・職員同士でも会話を気をつけていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・何気ない会話をしながら本人の思いを聞けるようにしている。	○ ・コミュニケーションを多くもち、本人の話の傾聴に努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々、一人一人のペースで生活できることを大切にしている。	○ ・本人の希望を大切にしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・気分転換に出かけたり、時には出張してきていただいたりし、それぞれに毛染めをしたり、パーマをかけたりにしている。	○ ・家族に連絡し、了解をいただいている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・嫌いなものがでた場合、代替え提供する。各々役割意識をもって家事に関わっている。	○ ・食事の味付け等を一緒にみたり、盛りつけ等をその方によって出来るところで参加してもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・好きな飲み物の購入を支援している。	○ ・毎朝の牛乳等。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排尿間隔を把握して行っている。	○	・声掛け等をこまめに行い、本人にあったパット等を使用し、トイレ誘導を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・気の合う者同士入浴したり、あまり仲の良くない者同士一緒にならないよう気をつけている。 ・時間帯は本人に確認して行っている。	○	・入浴を希望しない方には、清拭用にタオルを渡し、自分で拭いてもらうよう支援している。 ・入浴拒否された日には、足浴の実施。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・灯りの調整。 ・落ち着いた雰囲気をつくるように努めている。 ・入浴後の休憩等に配慮している。	○	・日中、特に午前中は活動的に過ごしていただき、午後からは庭に腰掛けるなど静かに過ごせる環境を整えるようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・自宅へ帰りたいときは、それに応じ、付き添っている。 ・役割が楽しみになるような支援に努めている。	○	・手芸等、特技を生かし縫い物や編み物などをしてもらったり、教えてもらっている。 ・感謝の気持ちを表す。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人の希望に応じ、家族の同意も得て、金銭を所持し、買い物の際そこから支払っている。	○	・外出し、買い物をしたり、出張売店を希望によって利用している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物や通院等、本人の希望に添えるよう支援している。	○	・近隣への散歩、祭等のイベントにも積極的な参加を試みている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族と共に出かけられるよう常に呼びかけを行っている。	○	・以前実施していた一泊旅行や日帰り旅行を再度計画していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・公衆電話を利用され自由にかけてくれる方や支援が必要な方がいるが頻度は毎日である。携帯電話所持者もいる。	○	・今後も家族や大切な方とのつながりを大切にするよう手紙を托されたらすぐに出すよう努めていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・談話できる場所の確保と和げる雰囲気への配慮。 ・笑顔でお茶等の接待を行う。	○	・環境整備に心がけている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・勉強会で話しあっており、全職員が正しく受け止めている。	○	・研修会には積極的に参加し、ミーティングの時などに報告し、共有できるよう今後も継続したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・扉に鈴をつけ無断外出に気をつけている。鈴の音がしたら必ず確認を行っている。	○	・目配りと寄り添う支援で、落ち着いていただきたいと考えている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員間の声掛け。 ・昼夜の様子をミーティングや申し送りノートを活用し共有している。	○	・職員の報・連・相を今後も力を入れて行っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・危険物は目や手の届かない場所においたり、統一して保管する場所を決めている。	○	・保管場所の取り決めに今後も守る。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・勉強会で行う。 ・ヒヤリハットをまとめ、回覧できるようにしている。	○	・今後もヒヤリハットを活用していきたいが、記入もれがあるので気をつけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・看護師を加えて勉強会で行っている。 ・救急救命士よりADEの講習を行った。 ・ミーティング時、イメージトレーニングをしている。	○	・今後も定期的に研修会を開き、参加したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練を行っている。	○	・今後どのようにして地域住民の協力を得ていくのかが課題である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・家族に対してその状況を報告し、理解に努めている。	○	・今後も家族間との関係を密にしていきたい。また、リスクに対応した環境整備などを行う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・職員同士、いつもと違う様子に気づいたときは声を掛け合っている。また、看護師に相談している。	○	・日常の様子、状態を把握し、特変時には、すぐわかるよう努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・担当が自らファイル作成し、いつでも見えるところに置き、皆で共有できるようにしている。	○	・服薬ミスが起きないように、職員同士で確認し合って本人に渡す、もしくは服薬支援している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・冷たい牛乳や散歩を行い排便を促している。	○	・本など色々な情報を取り入れ、思案していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食前後のうがいの励行。食後の歯磨き、もしくは、義歯洗浄	○	・美味しい物をより美味しく食べられるし、感染予防にもなることが習慣化しているのでとても良いことだと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々の状態に合わせ食事量を加減したり、水分摂取を拒否する者の水分把握に努めている。	○	・嗜好を調べ、好物を摂取してもらうようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・ポスターの掲示。 ・施設独自の対策。 ・年1回施設全体のバルサン消毒を実施。	○	・施設全体の勉強会を開き、統一したマニュアル等を作成し、それにそって実施している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食材は毎日新鮮な物を業者に届けてもらっている。 ・食器消毒、手指洗浄の徹底。 ・調理用具は熱湯消毒し、次亜塩素酸に浸け置きしている。	○	・鮮度の悪い物は業者に引き取ってもらい交換している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・花を飾る。	○	・花に限らず、色々な植物を飾る。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家具の配置などを工夫しながら、空間作りを行っている。 ・扉等の開閉音に配慮している。	○	・夜間の引き戸の開閉音が響かないよう工夫した。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・スペース作り。模様替え。	○	・多くの椅子等を用意する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具を持ち込める。	○	・親しんだ物を持ち込めるよう家族に声掛けを今後も継続したい。家族との関係を密にし、信頼関係を築くことに努める。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・各居室はもちろん、天窓などを開け空気の入換えを行っている。また、冬場は加湿器をおいている。 ・風邪などの予防のため、湿度、温度に気を使っている。	○	・換気への配慮
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりの工夫。 ・ベットなどを手すりの代わりに出来るようベット、ダンスの配置の工夫をしている。	○	・環境づくりに努め、どれがよいのか利用者の負担がかからない程度でためしてみる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・「置き忘れたものの、認めたくない」など混乱がないよう声掛けや、本人希望にて居室に鍵をかけている者もいる。	○	・混乱を防ぐよう、さきへさきへと考えるなど、予知能力を高める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・畑仕事を皆でしている。 ・ベランダでの洗濯物干し。	○	・ベランダと建物間に段差があるので声掛けを行いながらベランダでの洗濯物干しが出来るよう今後も支援していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 天気の良い日は外に出かけることが多く、楽しみをもっている。
- ・ 利用者と話をしながら家事へと関わり
- ・ 一緒に笑ったり、喜んだりしている生活。
- ・ さりげない気配りが出来るよう努めている。
- ・ 個人のペースに合わせた支援を行っている。
- ・ 自分で出来ることが一つでも増えることを願い支援に当たっている。
- ・ ぎんなん荘だよりを毎月発行し、普段面会に来ることの出来ないご家族や遠方の方への情報となっていると思う。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	いちょうの里グループホーム
(ユニット名)	北棟
所在地 (県・市町村名)	宮城県栗原市築館字下宮野館108番地
記入者名 (管理者)	宍戸 淳子
記入日	平成 19 年 5 月 25 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人全体の理念とグループの目標を見易い所に貼り、確認している。	○	・理念をミーティング時に復唱して統一を図っている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎朝、ミーティング後、全員で復唱している。	○	・朝のミーティング時、大きな声で、毎日、皆と復唱している。 ・勉強会で再度確認する。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・年1回の家族会で説明したり、ボランティア、保育所等で交流したり、街頭指導等に参加している。 ・広報の中でもとり上げている。	○	・年1回、家族会を設け、実施し、ボランティア、保育所等で交流を図っている。 ・年間の行事の通りに理解していただく。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩等で、声かけ、挨拶にて親善を深めている。	○	・夏祭り等、一般の方にも声かけやポスターで参加を促している。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・歌、踊り、地区の敬老会等の招待に参加し、交流している。	○	・本人の希望、体調に合わせ、また、天候しだいで外食、デパート見学、互市見学、踊りの発表会、お遊戯会等季節に合った行事に合わせて出掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・介護者教室を開き、話題にそい話し合いをしている。	○	・自由に立ち寄っていただけるよう企画を考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・皆と自己評価に取り組み、勉強会等で話し合いを持ち取り組んでいる。	○	・項目に目をとおすことで日々の仕事を確認する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、評価への取り組みやその結果を報告して意見交換している。	○	・結果報告といった話し合いが多い中、別の視点で意見いただくことで活性につながっている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・制度改正に関わる等々気軽に電話相談などを行う。	○	・活発化していけるように努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修に参加している。	○	・利用者の希望でマモリーブなど利用している方もいる。 ・成年後見制度の対象者がいない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会で話し合いを持ち、対策を考えて虐待の防止に努めている。	○	・職員研修、勉強会で話し合っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用者や家族等と話し合いの場を持ち、理解してもらうよう努めている。	○ ・利用者と家族に十分な説明を行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会を開催し、家族の意見を聴き、運営に反映させるようにしている。	○ ・利用者の言葉に耳を傾ける ・苦情などの連絡先を見やすい所に掲示している。 ・自由に外部と電話、ハガキ等で連絡をとっている方もいる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月、家族へのお便りで、利用者個々に合わせた報告をしている。 ・その都度、特変時など報告し、また、面会時に生活状況の報告をする。	○ ・今後も継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・グループホーム内に意見箱を設置している。	○ ・家族等が気軽に言ってもらえるよう雰囲気をつくる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・勉強会または毎朝の申し送りにて、意見を聴いて、反映させている。	○ ・毎年、年度初めに職員から一人ひとり、抱負を聴いて反映させていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・ミーティングやその都度対応に努めている。 ・状況による変更にも協力している。	○ ・外出、外泊時の送迎も家族の希望に応じて行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・変更がある場合は、理解出来るような十分な説明を行い職員が統一した声掛けを行い精神的ダメージを防ぐよう努めている。	○ ・異動してきた職員には統一した声掛けなどができるよう話し合い、勉強会などを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人研修、職員研修や勉強会等で個々の能力アップを図っている。	○	・他のグループホームとの交換研修などに参加している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市レク、他のグループホームと共に勉強会を実施し、交流を図っている。	○	・他のグループホームとの合同勉強会を実施、また、ソフトボール大会など実施し交流している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・懇談会を持ち、職員間の親睦を図っている。	○	・移動勉強会を設ける。 ・親睦会があり、年に数日、全員対象に交流の場がある。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・介護者の健康管理に気をつけながら、一人ひとりの意見を反映できるよう努めている。	○	・勉強会、施設外の研修会に参加して、向上心をもって働けるよう努めている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・利用者からの話は、出来るだけ聴くように努めている。 ・利用者とのコミュニケーションを多く取るように努めている。	○	・初期の印象を大切にしている。職員がよく話を聞き、笑顔で接するよう努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・常に家族と連絡を取り、連携を図っている。	○	・家族が悩んでいることや問題点など、なくすよう声掛け、話し合いをもつ。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人や家族に対し、随時どのようなサービスが必要か聞き取りし、その要望に応じた支援を行っている。	○	・今まで以上に小まめな要望の聞き取りをしていき、適切な支援を行っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前に見学して、入所者の方と交流を持ち、本人の気持ちを大切にしている。	○	・利用者の愛着のある物を家族に持参していただき、利用者が早く雰囲気に馴染めるようにしていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・一緒に笑ったり、喜んだりし、気楽に話ができるように、温かみのある生活に努めている。 ・利用者の年代に話を合わせることで、話が進んでいる。	○	・利用者との関わりあいの中で本人の話を聴いたり一緒に時間を過ごし、その中で支え合う関係を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・いろんな行事に参加していただき、利用者の方の状況を共有する。常に連絡を取り連携を図っている。 ・家族の方からの相談にも応じる。	○	・利用者の状況を家族と共有し、または、家族から利用者の情報を得ながら本人を支えていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時に家族への状況説明をこまめに行い、本人にも説明し、理解してもらい連携を図っている。	○	・本人、家族との連携を密にして理解に努めていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人、親類の面会や外出にて忘れないように支援している。	○	・友人、親類の面会、自宅への外出で、忘れないように努めていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・常に把握に努め、仲介に入ったり、団欒、家事手伝いにより関わりを持っている。	○	・一人ひとりが安心して仲良く生活できるように支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所後も電話や訪問での相談に応じている。	○	・話し合いに応じ、家族の家族の話を聞き適切なアドバイスをしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプランの見直しに本人の意向を聞いて検討している。 ・利用者の毎日の状態を見ながら3ヶ月ごとに見直しを行っている(本人を交えて。)	○	・本人の思いや希望を大切に検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族にその都度状況に応じて聞き取りをしている。 ・利用者との会話の中で、これまでの生活感を読み取ることができる多くの会話を持つ。	○	・聞き取った生活感をもとに支援していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一人ひとりの状態を職員間で申し送り、共有する。 ・生活状況を記録し、申し送っている。 ・申し送りノートを作成している。	○	・ケース記録の作成
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ケアプランの見直しについて、本人の意向を聞いて、家族と話し合い、要望も受け入れている。 ・状況によりカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。	○	・ケアプランの見直しに本人を交え、家族の思いを反映した計画を作成する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・ケアプランの月1回の評価を行い、本人を交えての話し合いを持ち、家族とも話し合いを行っている。 ・毎日の生活の中で、いつもと違う行動等を記録し、介護計画に反映させている。	○	・毎日、ケアプランチェック表を付けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・センター方式により、個別ファイルを作成して介護支援に生かしている。	○	・継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・併設しているデイサービスセンターへ慰問、行事参加等で、地域の人達とも交流ができる支援を行っている。	○	・併設している各セクションと話し合いをもち、交流ができるよう努める。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員の面会、ボランティアの慰問、消防の避難訓練、映写機を借用して上映するなど協力をもらい支援している。	○	・地域の方々にも来苑し易い体制を取り、協力をいただくように努める。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・特になし		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・特になし		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族に希望を聞きながら進めている。	○	・充実していけるよう連携を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・家族に状況を報告しながら受診依頼をしている。	○	・日常生活での特記事項を記録し、家族へ提出し、受診時に役立ててもらおう。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・毎日、状況報告を行い、状況により指示を受けている。	○	・看護師からの申し送り事項の職員間への申し送りや記録の徹底をする。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・家族、職員、医師との連携により実施している。特に職員は、その都度面会に行き、励まし等、声をかけている。	○	・蜜に病院に出向き、情報等を医療機関と話し合う。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・勉強会で、話し合いを持ち共有している。	○	・全員での方針を共有できるよう努める。 ・マニュアル作成した。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・勉強会で、話し合いを持ち共有している。看護師、医師、職員間の連携を取って実施するよう話し合いを持っている。	○	・今後も職員間や関係機関との連携を図り、より多くの話し合いを持っていくようにしていきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・特になし		・特になし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライドを傷つけないよう声掛けをし、個人情報漏れのない書類の保管務所を決めている。 ・ゆったりとした気持ちで、よく話を聞く姿勢をとっている。	○ ・言葉遣いは職員同志でも気を付けていかなければならない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・何気ない会話をしながら本人の思いを聞けるようにしている。	○ ・コミュニケーションを多くもち、本人の話に傾聴に努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々、一人ひとりのペースで生活できることを大切にしている。	○ ・本人の思いを大切にしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・気分転換に出かけたり、時には出張して来ていただいたりし、それぞれに毛染めをしたり、パーマをかけたりしている。	○ ・家族にも連絡し、了解をいただいている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・嫌いなものが出た場合、代替え提供する。各々役割意識を持ち、家事に関わっている。	○ ・食事の味付け等を一緒にみたり、盛り付け等をしてもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・好きな飲み物の購入を支援している。	○ ・毎朝の牛乳等

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・さりげない声掛けや定時のトイレ誘導にて排泄を促している。	○	・排泄用によるチェックを行う。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・気の合う方々で入浴したり、本人の希望を聞き支援している。	○	・本人の希望により入浴を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・本人の自由にさせていただいている。	○	・日中、活動的に過ごし、夕方より夜にかけて静かにし、環境を整えるようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・買い物や散歩、慰問等の受け入れをし、気分転換や楽しみのある生活の支援を行っている。	○	・本人の意思を優先して外出、行事等にできるだけ参加の支援を行っている。 ・出来る範囲での役割を持っている方もいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人の希望がある場合は、家族との連絡を取り、必要に応じ渡している。	○	・暖かい時は外出し、買い物をさせていただき、冬季は、出張店を開き、希望により利用している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天候に合わせて外出、散歩を本人の希望により行っている。	○	・本人の希望を取り入れ、自宅へ行ったり、外出、散歩を行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・地域で行われる催し物がある時には外出をしている。	○	・家族旅行、一泊旅行を再度計画していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望により支援している。 ・本人が家族の声を聞き安心して生活を送れるように支援している。	○	・ある方は、毎日電話することで家族も安心するということで、夕方の不穏時に家族に電話する。 ・自由に電話、ハガキを出す方もいる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・職員の友人に声をかけてはいるが、友人宅にも介護者がおり訪問に至っていない。 ・本人が希望する時は自由に電話したり、呼んだりできるようにしている。	○	・環境整備に心掛けている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修、勉強会で周知し、身体拘束をしない取り組みをしている。	○	・全職員が正しく受け止めている。 ・ポスターでの掲示。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・常に所在確認、職員間の声掛けを重視している。 ・居室や入り口に鈴を付けたりすることで利用者の行動を察知できるようにしている。	○	・玄関の戸に鈴を設置し、音がするたびに確認している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・危ない物は固定したり、表示し、目配り、見守り支援をしている。 ・他利用者の居室に入ったりしないよう目配り、見守りをしている。	○	・常に入居者を見守りやすい場所に位置してもらっている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・危険なものについては、預かり、使用するとき本人に渡している。 ・危険物は目や手の届かない場所に置いたりし、統一して保管する場所を決めている。	○	・危険なものは預けるよう声掛けしている。 ・物によって保管場所を定め、職員間で徹底している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・研修や勉強会にて、話し合いを持ち学んでいる。	○	・連絡網の確認と表示等を皆が見える所に表示している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急マニュアルを作成し、職員間で、その都度対応できるように話し合っている。	○	・緊急時の想定訓練等を業務の中で取り組んでいる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・施設全体や独自での避難訓練を行っている。	○	・施設全体や独自での避難訓練を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・家族会において説明し、早めに連絡して対応している。	○	・状態変化に応じ家族への密な連絡を図る。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日のバイタル測定、検温により状態を把握して、看護師に報告し、その都度対応している。	○	・日常の状態を把握し、特変時に対応できるように努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者一人ひとりの薬の説明書を作成し、ファイリングしている。職員は、お互いに確認しながら支援し、症状の変化を記録し、申し合わせている。	○	・誤配がないように職員間で確認し合い、本人に渡し、服薬を確認する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分を多く摂取する。 ・散歩や体操をすることで排泄を促している。 ・医師と相談し、薬の処方に対応	○	・便秘等の情報や資料を取り入れ考えていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食事前後のうがい、歯磨きの支援 ・就寝前の義歯洗浄を行っている。	○	誤飲、感染予防にもなるので習慣にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日1人1,400Cal摂取し、状態に応じた食事を支援している。 ・たべ悪い、水分の摂取の悪い方は、チェック表を作成し、毎日観察を行い申し送っている。	○	・嗜好を聞き出し、買い物等にて飲み物等を購入し、摂取している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・勉強会、委員会を行ったり、看護師からの説明により理解を深め実行している。	○	・感染症に対するマニュアル等を設けて掲示し、広めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食材は毎日購入し、残食は処分し、台所用具は熱湯、ハイター消毒の徹底をしている。	○	・新鮮な食材のみを厳選している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・スロープがあり、周りには花を植えたプランター等を置いている。	○	・冬季にはスロープが滑らないように除雪をしたり、融雪剤を撒き、事故を防いでいる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・昔風のダンスやつい立等を利用し、また、植物を置いたりすることで、生活しやすい空間作りに努めている。 ・家具の配置替えをしたりして居心地よく過ごせるように配慮している。	○	・常に建物内の空間に気を配り居心地よく過ごせるようにする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・和室やソファー、テーブル席と、自分で自由に好きな所で過ごせるよう配置を工夫している。 ・利用者の状況を把握し、配置を変えたり、仕切りを付けたり工夫している。	○	・季節ごとに配置換えをし、季節感を感じてもらったり雰囲気作りをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の馴染みの物や好みの物を置いて、安心できる工夫をしている。	○	・ベットやタンスが備え付けであり、利用者の馴染みの物を持ってきていただき居心地良く過ごせるよう工夫する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・冬場は、天窓を開け、換気したり、加湿器により体調を整えている。	○	・常に心掛け、徹底を図っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人がすみやかに生活できるように本人の分かる目印などで安全を保っている。	○	・全居室の洗面台に手摺を設置している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・本人のできること、わかることを活かした生活ができるよう見守りし、生き生きとした生活の支援に努めている。	○	・その都度対応できる態勢にある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・花壇、フェンスの周り、室内に観葉植物などで自然に親しんでいる。	○	・ベランダに物干し場があるため、洗濯物干し、布団干し等、自力でできる方には自由に使ってもらい、また、一緒に支援している。また、畑や花壇等にも自由に出入し、草取り等を行っている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 玄関先、藤棚、ホーム一周の散歩。特に天気の良い日は、歌を歌い談話、手足の軽い運動で心身の機能の低下の防止に努めている。